



その他の話題もウェブサイトに満載

輝く恵那人

特別号

市外で活躍する恵那市出身の方を紹介します。

山岡町出身

なかむら

中村 いてうさん (42歳)

□プロフィール

平成13年4月故五代目中村勘九郎さん(十八代目中村勘三郎)に入門。令和5年7月、重要無形文化財「歌舞伎」の保持団体の構成員に認定された。



◀令和4年5月29日の歌舞伎舞踊公演。『茶壺』で盗人の役を演じた



▲1月14日開催の市伝統芸能大会でステージに登壇

1月14日、恵那文化センターで第34回市伝統芸能大会が開催された。市の伝統芸能を動画で紹介する企画でナレーションを務めたのが、山岡町出身で歌舞伎俳優の三代目中村いてうさんだ。ハキハキとした口調とユーモアあふれる言い回しで、会場は温かい笑いに包まれた。

いてうさんの祖父は、地歌舞伎の振付師である故六代目松本團升さん。「稽古の小道具でこっこ遊びをしていたので、身近に芝居があった」と幼少期を振り返る。国立劇場歌舞伎俳優研修生を修了後、故五代目中村勘九郎さん(18代目中村勘三郎)に弟子入り。さまざまな役を演じたり、教育番組に出演したり、振付指導を行ったりなど、その活動は多岐にわたる。

4月12日(金)には五毛座(飯地町)で開催される「中村勘九郎・中村七之助 春暁歌舞伎特別公演2024」に出演予定。「幼い頃からなじみのある五毛座の舞台に、

良き伝統の保存と継承へ 歌舞伎俳優と恵那観光大使を生かして

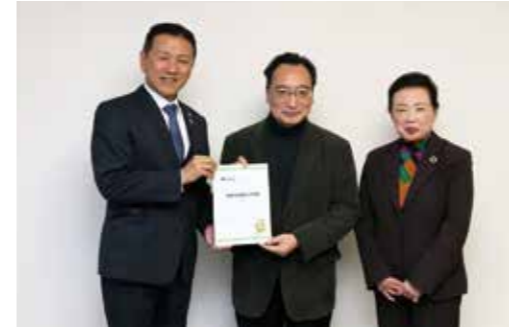
師の追善公演で立てる。そのことに感謝をし、「精一杯努めたい」と準備を進めている。

令和2年からは恵那観光大使に就任。市内の芝居小屋を巡業して歌舞伎そのものの魅力を発信するだけでなく、地歌舞伎に取り組み小学校の歌舞伎クラブへの指導も行っている。伝統芸能を継承していくためには、芸能の面白さを知ってもらうことと次の世代に受け継いでいくことが重要。自身の活動を通じ、保存会の人数が増えたと聞いて手応えを感じた。

「地歌舞伎の良さは、誰でも参加でき、舞台に立つことができる手軽さ。地元の芸能や地歌舞伎に恩返しを」と、引き続き伝統の伝承と後継者育成にも力を入れたいと考えている。「自分の歌舞伎とめれた囃子などの地元の芸能をコラボレーションさせた演目に挑戦したい」と話すいてうさんは、良き伝統に新たな息を吹き込ませようと、前に進んでいく。

12/18

笑顔あふれるまちを目指して
市公園在り方指針案を提出



市公園在り方検討委員会から、市内公園の今後の整備や維持管理についてまとめた指針案が提出されました。市はこの案を指針とし、市内外の人でにぎわう公園や、子どもたちが快適に遊べる魅力的な公園などへの整備を進めていきます。



12/16

秋の中山道を彩った
のれんコンテストの表彰式



「秋」をテーマに、第14回中山道のれんコンテストの作品を募集したところ、135点の応募がありました。市長賞を受賞したのは秋山泰子さん(長島町)。母との思い出が詰まったカスリの布でトンボを表現し「初めての出品で、一生懸命制作しました」と受賞を喜びました。

12/25

ゴルフ場で心肺蘇生
消防協力者に感謝状を贈呈



左から後藤さん、高橋さん、伊藤さん、立花さん
笹平カントリー倶楽部(山岡町)従業員の後藤康浩さんと高橋竜幸さん、プレーをしていた伊藤俊孝さん(豊田市)、立花伸彦さん(名古屋市)、福田篤さん(豊田市)に感謝状が贈られました。5人は10月1日、プレー中に心肺停止した人に適切な処置を行い、救命しました。

12/20

頑張れ受験生!
「しみチョコ勝ち栗」を贈呈



栗の6次産業を学ぶ恵那南高等学校の生徒が、受験生応援グッズ「しみチョコ勝ち栗」を製作し、近隣の高校に通う受験生に贈りました。本年は干支の辰をプリントした丸みのある包装に一新。同校3年生の小栗百華さんは「合格できるようにと思いを込めました」と話しました。

1/1

令和6年能登半島地震
緊急消防援助隊などを派遣



令和6年能登半島地震の被災地に緊急消防援助隊として市消防本部が派遣され、人命救助活動や救急搬送業務を行いました。11日からは市職員が派遣され、給水車で給水活動や罹災証明の申請受け付け業務などを行いました。今後も、要請に応じて支援を続けていきます。

12/26

大谷選手が寄贈したクラブ
市内小学校で歓声が上がる



メジャーリーグで活躍している大谷翔平選手が寄贈したクラブが市内全小学校に届きました。中野方小学校でのお披露目では、児童代表がキャッチボールをして楽しみました。6年生の鈴木菜心さんは「最高のクリスマスプレゼントをもらいました」と笑顔で話しました。